

金山明 略年譜

北川智昭

凡例

- * 本略年譜は、金山明の事績を主とし、それに若干の関連事項を加えて編んだものである。展覧会の出品歴には■、一般事項には●、文献から抜粋した項には□を附した。
- * 本年譜を編んだ意図のひとつは、金山の生涯の活動を浮かび上がらせることにある。そのため、記載事項は具体以前と具体以降の活動を重視して事績を掲げた。
- * 展覧会出品作は、制作時期を具体以前(A)、具体時代(B)、具体以後(C)に分け、作品名の後に図版番号(例:No.A-X)を附した。また作品名不詳の場合は仮題(*)で表記した。
- * 記載事項は、『具体資料集』所収年譜(芦屋市立美術館編 1993年)、「田中敦子」展カタログ所収年譜(加藤瑞穂編 田中敦子展実行委員会、芦屋市立美術館、静岡県立美術館発行 2001年)を典拠とした。

金山明 略年譜

1924 (大正13)年 0歳

7月 ●17日、兵庫県尼崎市に、市内神田中道で呉服屋「ねるや」を営む父道寛、母すへの六男として生まれる。

1937 (昭12)年 13歳

4月 ●大阪商業学校(現在・大商学園高等学校)に入学。

1939-40 (昭14-15)年 15-16歳

この頃 ●父道寛が尼崎市武庫川で旅館・蓬莱荘を始める。家族とともに移り住み、両親、長兄夫婦、兄弟らと暮らす。この時期から遠縁が住職を務めていた妙法寺(大阪市南区谷町八丁目)に出入りし始める。

1941 (昭16)年 17歳

12月 ●大阪商業学校を卒業。

1943 (昭18)年 19歳

5月 ●尼崎市大庄国民学校(現在・尼崎市立大庄小学校)の助教となる。

1945 (昭20)年 21歳

春頃 ●大庄国民学校の児童とともに疎開する。

6月 ●尼崎市大庄国民学校を退職。

この頃 ●尼崎市で古本屋を営む。

1946 (昭21)年 22歳

4月 ●多摩帝国美術学校(現・多摩美術大学)西洋画に入学。

1947 (昭22)年 23歳

●多摩帝国美術学校を退学。

1948 (昭23)年 24歳

3月 ●尼崎市立大庄中学校教員となる。 ●大阪市立美術館付設美術研究所に入所。

1949 (昭24)年 25歳

3月 ●尼崎市立大庄中学校を退職。

1950 (昭25)年 26歳

秋頃 ●大阪市立美術館付設美術研究所に入所してきた田中敦子と知り合う。

4月 ●大阪商業高等学校(現在の大商学園高等学校)教員となる。 ■新制作展に出品し始める。



1歳頃の金山明

1951 (昭26)年 27歳

3月 ●大阪商業高等学校を退職。

1952 (昭27)年 28歳

●新制作派協会で先鋭的な作品を出品していた白髪一雄、村上彦(三郎)ら、若手作家約15名でゼロ会を結成。妙法寺の住職家・伊藤家の養子となっていた実弟・良治を頼り、寺の離れで例会を開く。田中敦子もまもなく参加。

1954 (昭29)年 30歳

9月 ■第18回新制作展(東京都美術館、9月21日～10月7日、京都市美術館、大阪市立美術館を巡回)に、《作品(J3)》(No.A-62)《Work(J4)》(No.A-63)を出品。 □「大阪の砲台工場言うて、戦争の兵器をつくる広い場所で、そこが爆撃されてめちゃくちゃになってね、大阪城の後ろにあったんですけどね、大阪城の石垣の下からダァーッと何キロか焼け野原になって、しかも爆撃でくずれてしまってメチャクチャな廃墟があったんですよ。その当時ね。(金山) その廃墟にわたしはそれが好きで一人でよく行ってたんですけど、主人誘って行ったんです、こんなところがあると。それと大阪港。大阪港も煙突がずうっと高くに上がって・・・。(田中)

灯台があってな。(金山) 何というか、イタリアみたいな雰囲気のところがある。ここも好きで、二人で行っている間に金山の作品ができた。こんな煙突が四つ並んだ絵、抽象化していった。それが始まりですね、主人の絵は。(田中)」(金山明 田中敦子インタビュー／聞き手：中村政人『美術と教育・1997』日本美術協会・上野の森美術館 1997年、p.310)

11月 ■第2回ゲンビ展(松坂屋・大阪、11月13日～18日／京都市美術館、11月22日～26日／朝日会館・神戸、12月10日～16日)に、《Work-S6》(No.A-57)、《Work-L3》(No.A-60)、《Work-L4》(No.A-61)、《Work-S1》(No.A-64)を出品。

秋頃 ■ゼロ会展(そごう百貨店・大阪)に、《作品》(No.A-66)、《作品》(No.A-67)を出品。 □「僕のちよんちゃん(という作品)でも一番最初に取り上げたのは吉原さんですよ。あれはゲンビでも通らなかった。吉原さんは僕の作品を評して、モンドリアンがここまでして『ニューヨーク・ブギヴギ』という作品で死んだ。その次を金山がしたと私は思うとおっしゃってくれたのです。」(金山明、田中敦子氏インタビュー／聞き手：尾崎信一郎、山村徳太郎『具体資料集—ドキュメント具体1954-1972』芦屋市立美術博物館編 芦屋市文化振興財団発行 1993年、p.400)

この年 ●大阪市立美術館付設美術研究所を退所。

1955 (昭30)年 31歳

この頃 ●妙法寺の離れに転居。

春頃 ●ゼロ会を解散し、白髪一雄、村上三郎、田中敦子とともに具体美術協会会員となる。 □「私の子供のころからの画友の金山明は、モンドリアンの純粋抽象の作品をもっと単純化したような絵を描いていた。それを突き進めて線と色面の構成をぎりぎりまで省略していったら、ついにカンバスの縦と横の比率だけが残ることになった。そこで何も描いていないカンバスでも立派な作品であると、大まじめでこれを展覧会に出品しようとした。」(白髪一雄『冒険の記録 エピソードでつづる具体グループの12年 第1回』『美術手帖』第285号 1967年7月、p.141)

6月 ■第8回芦屋市展(精道小学校講堂・芦屋、6月8日～12日)に入選し、会員推挙となる。 □「まっ白に塗りつぶした六十号の画目の下隅に赤で「ヒ」の字の線が小さく描かれているだけという作品をだした大阪



ゼロ会メンバー 左から金山明、村上彦(三郎)、白髪一雄 妙法寺の大広間で1952年頃

南区、金山明氏、「芦屋市展の変わり種を拾う」『毎日新聞』6月9日)

7月 ■真夏の太陽にいども野外モダンアート実験展(芦屋川畔芦屋公園、7月25日～8月6日)に、7メートル四方の白い板の中央に直径30センチの赤い球をおいた《作品 B》(No.B-1)を出品。

10月 ■第1回具体美術展(小原会館・東京、10月19日～28日)に、《作品》(No.A-67)、画面右下に三角の印をつけた《作品》(No.A-68)、赤い玉に電球を仕込んで天井に吊るした《たま》(No.B-3)、その《たま》が斜め上から大きな白いバルーンを照らしている《作品》(No.B-4)を出品。 □「ロビーから二階ホールへ入った観客は、今までどんな展覧会にも出品されたことのないものをそこに発見する。部屋の中央の天井からつり下げられたまっ白い巨大な球体、それは床までとどきそうで部屋の中央の空間を占めている。出品者金山明は部屋全体を長方形とみて、その中央に大きな球体を存在させたかったわけである。しかし観客にはそんな理屈はわからない、まっ白い大きな球体をよくよく見ると、空に浮かべられる白いアドバルーンなのである。それは観客にはユーモラスに感じられるのか、みな走りよってこれをつつきながら笑っている。このアドバルーンから少しはなれてやはり金山の差し渡し六十センチメートルもあるガラスのグローブがつりさがっていて、まっ赤な光をあたりに投射している。附近に飾られている作品を、どれもこれも赤い色に染めて知らん顔をしている。」(白髪一雄「冒険の記録 エピソードでつづる具体グループの12年 第3回」『美術手帖』第287号 1967年9月、pp.148-149)

11月 ■第3回ゲンビ展(京都市美術館、11月24日～28日/朝日ビルホール・神戸、12月1日～5日/大阪市立美術館、12月13日～19日)に、《No.1》、《No.2》、《No.3》、《No.4》を出品。

1956 (昭31)年 32歳

4月 ■一日だけの野外展(武庫川河口の廃墟・尼崎、4月9日)に、大きなバルーンを川に浮かべた《作品》(No. B-5)を出品。

5月 ■神港アンデパンタン展(神港新聞社3階ホール・神戸、5月1日～8日) 第二部・彫塑の部に会員共同で「具体グループ室」を出品。金山は、《たま》、《新聞紙》を出品。

6月 ■第9回芦屋市展(精道小学校講堂・芦屋、6月8日～12日)に、バルーンを切り取って板に貼り付けた《作品 1》(No.B-6)と、白く丸いビニールを貼り付けた《作品 2》を出品。

7月 ■屋外具体美術展(芦屋公園、7月27日～8月5日)に、電車の踏み切り用の信号灯を立てた《警報機》(No.B-8)、足跡のかたちをつけた白いビニール・シートを100メートルの長さにわたって巡らせ、最後は松の木の枝で終わる《足跡》(No.B-9)、針が逆に回転する《時計》(No.B-11)、《玉》(No.B-12)を出品。 □「会場の北の入口からはじまって南の入口まで、白いビニール布がえんえんと松の木の間をぬって敷かれている。三百メートルはあるうか、長く長く地をはってつづくのだが、この布には人が歩いたように靴形がスタンプされている。これをたどって会場を一巡できるのだが、これも作品の一つである。そのとき突然、チンチンとふみ切りの警報機が鳴りだした。あれ、こんなところに電車が通っているはずないのだが、と首をかしげながらよく見ると、まさに正真正銘のしる物である。パッパッと赤いシグナルも点滅している。これも靴形も金山明の出品物で、阪急電鉄へ出かけて、長時間、芸術論をぶち、係のおっさんを煙にまいて借りてきたものである。」(白髪一雄「冒険の記録 エピソードでつづる具体グループの12年 第2回」『美術手帖』第286号 1967年8月、p.144)

10月 ■具体美術小品展(三省堂画廊・東京、10月3日～8日)に、板を立てた作品2点(No.B-13) (No.B-14)を出品。 ■第2回具体展(小原会館・東京、10月11日～17日)に、《足跡》(No.B-9)、板を立てた作品2点(No.

B-13) (No.B-14)、バルーンを床に展示した《作品*》(No.B-15)を出品。 □「金山明は激しいと云う形容詞が全くあてはまらない。あらゆる場合にきちんとした計算と秩序が支えになっているようだ。しかし思考はたえず未知の方向へ向けられ制作行動はつねに大胆に行われる。今度も変形のバルーンをつくってその上に無数の点々をかきこんだ。ポンプで空気を送り込むと生きもののようにゆれ動く。なまなましい新鮮なものである。会場に生きものが同居しているような感じがふとする瞬間がある。しかしそれにしてもどこかきちんと組立てられた端正さが、他の色のあるお墓のような作品と共通するものをもっている。」(吉原治良「第二回具体美術展」『具体』第6号 1957年)

1957 (昭32)年 33歳

4月 ■第3回具体美術展(京都市美術館、4月3日～10日)に、玩具のリモコンカーにフェルトペンを取り付けて制作したドロワーイング12点 (No.B-16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 他2点)、手作りのモーター付自動線引機にインクを取り付けて制作した絵画2点(No.B-26, 27)と合成樹脂塗料を用いた《作品*》(No.B-28)、千号以上の大作1点、バルーンの作品 (No.B-29)を出品。 □「金山明はこの展覧会に無機質な線条が無数に走る不思議な作品群を出品した。オートマチックな方法は多少とも内面の緊張と燃焼を意味すると思われるが、金山の今度の場合はおそろしく冷たい感覚が流れている。そのはづである。彼は完全に機械を使って画をかかせたのだ。子供の玩具のタンクや自動車に少し走ってはくると向きを変えるのがある。金山は百貨店の売場でこれに目をつけ、数台買ったこれ等の豆タンクにマジックインクの瓶を結びつけて走らせて見た。その機械的な方向転換は案外無数の変化をもっていた。多くの実験ののち彼は特大型の機械を製作させて塗料を流して走らせた。これが今度の千号大以上の大作になった。」(吉原治良「具体美術第3回展」『具体』第7号 1957年)

5月 ■舞台を使用する具体美術(産経会館・大阪、5月29日午前11時～)に、《巨大なバルーン》を出品。

7月 ■舞台を使用する具体美術(産経ホール・東京、7月17日午後1時～)に、大阪での公演と同じく《巨大なバルーン》(推定No.B-30)を出品。東京での公演は、最初に舞台の上にしぼんだままの白いバルーンが置かれており、嶋本昭三の音楽にあわせて送風機で空気を入ると、舞台いっぱいにくれあがったバルーンが照明を浴びながら回転し、その後に金山がナイフで穴を開けるというものであった。 □「具体の第一回展で私は床から天井までとどくアドバルーンを、会場ホールの中央に出品しました。そして今回は劇場のステージに極限に近い大きさでバルーンをふくらませて、これに色々なライトを当て盆上で廻してみせる作品を考えました。これ等いづれの場合も私は平面、空間、時間、と云う分ち難い要素を一つのバルーンによって、体験したく、克服したく夢中でした。」(金山明「巨大なバルーン」『具体』第7号 1957年)

9月 ●5日にミシェル・タピエが初来日し、吉原治良宅で具体メンバーの作品を見る。

10月 ■第4回具体美術展(小原会館・東京、10月8日～10日)に、《作品*》(No.B-31)、《作品》(No.B-32)、《作品*》(No.B-33)を出品。

1958 (昭33)年 34歳

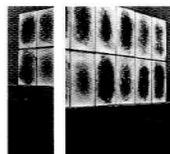
4月 ■舞台を使用する具体美術 第2回発表会(朝日会館・大阪、4月4日午後6時30分～)に、《生物学的バルーン》を出品。 ■新しい絵画世界展—アンフォルメルと具体(高島屋・大阪、4月12日～20日/岡政百貨店・長崎、5月27日～6月2日/福屋百貨店・広島、6月24日～7月6日/高島屋・日本橋、9月2日～7日/丸物百貨店・京都、9月13日～18日)に出品。 ■第5回具体美術展(小原会館・東京、4月30日～5月2日)に、《作品*》(No.B-34)、《作品》(No.B-35)を出品。



制作中の金山明 妙法寺の難れの自室にて 1957年頃



作品を展示する金山 第3回具体美術展会場にて 1957年4月



第3回具体美術展会場 1957年4月

9月 ■第6回具体美術展 (Martha Jackson Gallery, New York 9.25 ~ 10.25 / New England, Minneapolis, Oakland, Hustonを巡回)に、《作品》(No.B-36)、《作品*》(No.B-37)を出品。

1959 (昭34)年 35歳

2月 ●イギリスBBC放送が具体メンバーの制作過程を放送するために訪日。嶋本昭三、白髪一雄、鷺見康夫、吉田稔郎、吉原通雄とともに取材を受ける。

5月 ■Arte Nuova [アルテ・ノヴァ](Circolo degli Artisti, Palazzo Graneri, Torino, 5.5 ~ 6.15)に、《作品》(No.B-26)を出品。

6月 ■第7回具体美術展(Galleria Arti Figerative, Torino)に《作品*》(No.B-38)を出品。

9月 ■タピエの推す現代美術15人展(現代画廊・東京、9月21日~30日)に出品。

10月 ●大阪の松坂屋ドレスメーカー学院に勤務。

1960 (昭35)年 36歳

4月 ■第9回具体美術展「国際スカイフェスティバルデザイン特別陳列」(高島屋・大阪、4月19日~24日)に、《作品*》(No.B-42)、他絵画1点、国際スカイフェスティバル用原画を出品。また会場入口のディスプレイとしてバルーンをデザインする。

1961 (昭36)年 37歳

3月 ■Continuité et Avant-garde au Japon [日本の伝統と前衛](International Center of Aesthetic Research, Torino)に、《作品》(No.B-38)、《絵画》(No.B-44)、《絵画*》(No.B-45)、《絵画*》(No.B-46)が出品される。

4月 ■第10回具体美術展(高島屋・大阪、4月11日~16日 / 高島屋・東京、5月2日~7日)に、《作品*》(No.B-43)、《Work*》(No.B-47)を出品。

5月 ■具体小品展(中之島画廊・大阪、5月8日~13日)に、《Work》(No.B-39)、《Work*》(No.B-48)を出品。

6月 ■第14回芦屋市展(精道小学校講堂・芦屋、6月7日~11日)に出品。

1962 (昭37)年 38歳

4月 ■第11回具体美術展(高島屋・大阪、4月17日~22日)に、《作品》(No.B-40)、他1点を出品。

6月 ■Strutture e Stile [構造と様式](Galleria Civica d'Arte Moderna, Torino, 6.18 ~ 8.5)に出品。

11月 ■だいじょうぶ月は落ちない 具体美術と森田モダンダンス(サンケイホール・大阪、11月6日午後6時30分~)で、嶋本昭三、吉田稔郎、元永定正と合作で《白い空間》を発表。

1963 (昭38)年 39歳

1月 ■具体美術新作展(グタイピナコテカ・大阪、1月15日~24日)に出品。 ■第12回具体美術展(高島屋・東京、1月29日~2月3日)に、《Work 1963》(No.B-50)、《Work*》(No.B-51)、《Work*》(No.B-52)を出品。

4月 ■第13回具体美術展(高島屋・大阪、4月16日~21日)に、《Work*》(No.B-53)、他1点を出品。

6月 ■第16回芦屋市展(精道小学校講堂・芦屋、6月5日~9日)に出品。

9月 ■具体美術新作展(グタイピナコテカ・大阪、9月1日~10日、その後各水曜日)に出品。

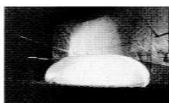
1964 (昭39)年 40歳

3月 ■第14回具体美術展(高島屋・大阪、3月31日~4月5日)に作品2点を出品。

5月 ●第6回現代日本美術展の際に、田中敦子とともに上京し、サム・フランシスのアトリエを訪問。



第9回具体美術展会場入口
1960年4月



《白い空間》嶋本昭三、
吉田稔郎、元永定正との
合作
1962年11月

6月 ■第17回芦屋市展(芦屋市民会館・芦屋、6月5日～9日)に出品。

9月 ■具体美術新作展(グタイピナコテカ・大阪、9月1日～10日、その後9月中各水曜日、10月1日～10日、その後10月各水曜日)に、《Work 1961》(No.B-49)を出品。

1965 (昭40)年 41歳

5月 ■Nul Negentienhonderd vijf en Zestig[ヌル国際展](Stedelijk Museum, Amsterdam, 4.15～6.8)に、吉原治良の指示に基づき現地で再制作された《足跡》(原作No.B-9)と、《作品*》(原作No.B-15)が出品される。

6月 ■第18回芦屋市展(芦屋市民会館・芦屋、6月9日～13日)に出品。

7月 ■第15回具体美術展(グタイピナコテカ・大阪、7月1日～20日)に、《バルーン*》(No.B-57)を出品。

8月頃 ●田中敦子とともに具体美術協会を退会。田中敦子と結婚し、妙法寺の離れで暮らし始める。

11月 ■GROUPE GUTAI [具体グループ] (Galerie Stadler, Paris, 11.30～1966.1.8 / Kölnischer Kunst Verein, Köln, 1966.2.1～27 / Mickery Arthouse, Loenersloot, 4.2～23)に、《絵画》(No.B-44)、他を出品。

1966 (昭41)年 42歳

2月 ■The Artist at Work [アーティスト・アト・ワーク]Hampstead Art Centre, Royaume-Uni, 2～3)に、《Peinture》(No.B-41)が出品される。

夏頃 ●田中敦子とともに上京し、南画廊でサム・フランシスと会う。

1967 (昭42)年 43歳

9月 ●具体のメンバーであった鍋倉武弘、写真家の福沢博と3人で会合を持ち、禅画の円相を写真に収めることを取り決める。

1969 (昭44)年 45歳

7月 □南禅寺管長・柴山全慶の協力を得て『禅画の円相』を自費出版する。金山は出版の意図を次のように記している。「養叟・白隠を始め、永い歴史を持った禅の円相を見てみると、今世紀初頭から数限りない主義主張の下に発展を遂げて来た現代美術の根本理念が感じとれる。今や抽象絵画は現代美術の世界語となって広く通用している時代である。円相も同様に歴史や風土の説明がなくとも、全世界の人々のよい理解と感嘆を得ると私は確信している。わが国の禅匠達は、古く東山の時代から何と素晴らしい創造を残したことであろう。だが、このことを世の人々は、あまりよく知らないのである。抽象絵画の発展は合理的なもの、非合理的なもの、冷静、激情、即興と、熟慮と、いずれかの一面に偏して、活動が行なわれて来たようである。しかし真の美術は、一面だけのものではなく、人間の全面的な所産であるべきであり、単に技術によってのみ形造られるものではない。深く繊細な内面の体験によってのみ完成されるべきものなのだ。養叟・白隠の円相は、この事実を極めて明瞭に示している。円相こそ、モダンアートの精神の始祖であり、とりわけ厳しい師であると思うのである。このことを多くの人達に知らせたいと思う。そうすれば現代における円相の正しい認識も自ずと高まるであろう。——芸術は眼に見えないものを、見えるようにすることだ—— 西欧モダンアートの始祖パウル・クレーは、いみじくもこう言っている。」(金山明「円相とモダンアート」『禅画の円相』春秋社 東京 1969年、p.154)

1970 (昭45)年 46歳

3月 ■コレクターのアンソニー・デニー (Anthony Denney) が、自身の所蔵する《Peinture》(No.B-41)を1983年2月までロンドンのテイト・ギャラリーに貸与。



「ヌル国際」展(アムステルダム市立美術館)手前に金山明、奥にイヴ・クラインの作品が見える
1965年5月



『禅画の円相』春秋社
1969年7月

1972 (昭47)年 48歳

9月 ●奈良県高市郡明日香村栗原に転居。福澤博、服飾デザイナー福澤康子夫妻と共同生活を始める。

1973 (昭48)年 49歳

11月 ■明日香第2回展 秋季(11月2日～4日)を、田中敦子、福澤博らとともに明日香の自宅で開催。

1976 (昭51)年 52歳

11月 ■具体美術の18年(大阪府民ギャラリー、11月2日～14日)に出品。

1979 (昭54)年 55歳

1月 ■吉原治良と具体のその後(兵庫県立近代美術館、1月5日～28日)に、《白い丸》、《赤と黒》[後に加筆して《宇宙図 赤黒》(No.C-51)]を出品。

1981 (昭56)年 57歳

9月 ■《現代美術の動向 I》1950年代—その暗黒と光芒(東京都美術館、9月12日～11月8日)に、《作品(J3)》(No.A-62)、《作品》(No.A-66)、《作品》(No.B-36)が出品される。

1984 (昭59)年 60歳

11月 ■現代美術1950-1970展 関西・現代作家の軌跡(西武・八尾、11月17日～12月5日)に《Work》(No.B-39)が出品される。

1985 (昭60)年 61歳

9月 ■吉原治良と「具体」1954-1972(芦屋市民センター、9月1日～16日)に、《作品》(No.B-40)、《Work 1961》(No.B-49)が出品される。 ■絵画の嵐・1950年代 アンフォルメル/具体美術/コブラ(国立国際美術館・大阪、9月27日～11月26日)に、《作品》(No.B-32)、《Work 1961》(No.B-49)が出品される。

12月 ■Reconstructions: Avant-Garde Art in Japan 1945-1965 [再構成：日本の前衛美術](Museum of Modern Art Oxford, 12.8～1986.2.9 / Fruitmarket Gallery Edinburgh, 2.22～4.5)に、《作品》(No.B-36)が出品される。 ■Grupo Gutai: Pintura y Acción [具体：行為と絵画](Museo Español de Arte Contemporáneo, Madrid, 12.21～1986.1.26 / "Gutai: Akcija i Slikarstvo", Muzej Savremene Umetnosti, Beograd, 1986.3.27～5.4)に、《作品》(No.B-32)が出品される。

1986 (昭61)年 62歳

8月 ■スペイン・ユーゴスラビア帰国記念展 具体—行為と絵画—(兵庫県立近代美術館、8月30日～9月28日)に、《作品》(No.B-32)が出品される。

12月 ■JAPON DES AVANT GARDES 1910-1970「前衛芸術の日本」(Musée National d' Art Moderne, Centre Georges Pompidou, Paris, 12.1～1987.3.2)に、《デッサン帖 A》(No.A-10)、《デッサン帖 B》(No.A-11)、《Mar. 5》(No.B-16)、《Mar. 5》(No.B-17)、《Mar. 5》(No.B-18)、《Mar. 6》(No.B-19)、《Mar. 6》(No.A-20)、《Mar. 7》(No.B-21)、《Mar. 7》(No.B-22)が出品される。同展開催の折に渡仏。

1988 (昭61)年 64歳

1989 (昭62)年 65歳

10月 ■現代美術の創造者たち 昭和20年代の京都・大阪・神戸(鳥取県立博物館、10月10日～11月9日)に、《作品》(No.B-32)が出品される。

1990 (平成2)年 66歳

9月 ■<具体>未完の前衛集団—兵庫県立近代美術館所蔵作品を中心に—(渋谷区立松濤美術館、4月10日

～5月27日)に、《Work-C4》(No.A-15)、《作品(J3)》(No.A-62)、《Work-S1》(No.A-64)、《作品》(No.A-66)、《作品》(No.B-32)が出品される。

12月 ■ Giappone all'avanguardia; Il Gruppo Gutai negli anni Cinquanta [前衛の日本—1950年代の具体グループ](Galleria Nazionale d'Arte Moderna, Roma, 12.6～1991.2.28)に、《作品(J3)》(No.A-62)、《作品》(原作No.B-4 / 1990年再制作)、《足跡》(原作No.B-9 / 1990年再制作)、《作品》(No.B-32)、《作品》(No.B-40)が出品される。同展開催の折に渡欧。

1991 (平3)年 67歳

3月 ■ GUTAI Japanische Avantgarde/Japanese Avant-Garde 1954-1965 [具体：日本の前衛](Mathildenhöhe Darmstadt, 3.24～5.5)に、《作品(J3)》(No.A-62)、《足跡》(原作No.B-9 / 1991年再制作)、《作品*》(原作No.B-15 / 1991年再制作)、《作品》(No.B-26)、《作品》(No.B-32)、《作品》(No.B-40)が出品される。

9月 ■ 線の表現一眼と手のゆくえ—(埼玉県立近代美術館、9月10日～10月20日)に、《作品》(No.A-66)、《作品》(No.B-32)が出品される。

1992 (平4)年 68歳

2月 ■ 開館10周年記念 具体美術協会の作家たち —所蔵作品を中心に—(宮城県美術館、2月1日～3月29日)に、《作品》(No.B-32)、《Work 1963》(No.B-50)が出品される。

6月 ■ 具体展 I 1954-1958 (芦屋市立美術館、6月20日～8月2日)に、《Work C-4》(No.A-15)、《Work E-7》(No.A-16)、《Work E-11》(No.A-17)、《作品(J3)》(No.A-62)、《Work-S1》(No.A-64)、《作品》(No.A-66)、《作品》(No.A-67)、《作品》(No.B-7)、《作品》(No.B-26)、《作品》(No.B-32)、《作品》(No.B-39)、《作品》(No.B-40)が出品される。

7月 ■ 甦る野外展(芦屋公園、7月25日～8月2日)に、《作品 B》(No.B-2)、《足跡》(No.B-10)が出品される。

8月 ■ 金山明 第1回個展(ギャラリー KURANUKI・大阪、8月19日～9月3日)を開催。《モーツァルト “ピアノ協奏曲 第27番 K595”》(No.C-8)、《ラベル “ボレロ”》(No.C-9)、《宮城道雄 “春の海”》(No.C-10)、《シューベルト “野薔薇”》(No.C-11)、《ベートーベン “交響曲 第9番 「合唱」》(No.C-12)、《ショパン “ポロネーズ 第6番 「英雄」》(No.C-13)、《ショパン “ポロネーズ 第7番 「幻想」》(No.C-14)、《モーツァルト 序曲集(1～6)》(No.C-15)、《ベートーベン “ピアノソナタ 「情熱」》(No.C-16)、《シューベルト “交響曲 第8番 「未完成」》(No.C-17)、《バッハ “ブランデンブルグ協奏曲 第3番”》(No.C-18)、《バッハ “管弦楽組曲 第2番”》(No.C-19)、《ガーシュイン “ラブソディ イン ブルー”》(No.C-20)、《ガーシュイン “バリのアメリカ人”》(No.C-21)、《モーツァルト “レクイエム K626”》(No.C-22)、《ベートーベン 序曲集(1～4)》(No.C-23)、《ビバルディー “協奏曲 第1、2、3、4番 「四季」》(No.C-24)、《シューベルト 歌曲 “セレナーデ”》(No.C-25)、《グレッキ “すでに日は暮れて”》(No.C-26)、《サラサーテ “ツィゴイネルワイゼン”》(No.C-27)、《ストラヴィンスキー バレエ組曲 “火の鳥”》(No.C-28)、《ビゼー “カルメン 第1・2 組曲”》(No.C-29)、《バッハ 管弦楽組曲 第3番より “アリア”》(No.C-30)、《ドボルザーク “交響曲 第8番 作品 88”》(No.C-31)、《ブラームス “交響曲 第1番”》(No.C-32)、《ベートーベン “交響曲 第9番 「合唱」》(No.C-33)、《モーツァルト “レクイエム K626”》(No.C-34)を出品。 □「このような発想を得てから二十数年がたちました。 今回の発表は時間の中を流れてゆく名曲を、波形に変えて画面に移し、一瞬にしてその曲のもつ美しさを見てとろうとする制作です。 名曲であり名演奏である程、より美しい造形画面を作り出すと云うことを経験しました。 今日のコンピューター時代であればこそ為し得た仕事で、発想当時であれば、不可

能に近い至難なことであつたらうと思われます。」(金山明「音楽の古今の名曲と呼ばれるものを、何等かの形で画面に移し描いてみたら」『金山明 第1回個展』[展示会案内状]ギャラリー KURANUKI 1992年)

1993 (平5)年 69歳

1月 ■具体展II 1959-1965 (芦屋市立美術博物館、1月5日～2月14日)に、《Work 1961》(No.B-49)、《Work 1963》(No.B-50)が出品される。

2月 ■金山明 第1回個展 1950/1992 (ギャラリーたかぎ・名古屋、2月2日～3月6日)を開催。《Work》(No.A-18)、《Work》(No.A-19)、《Work》(No.A-49)、《Work》(No.A-50)、《Work》(No.A-51)、《Work-S6》(No.A-57)、《Work-L4》(No.A-61)、《Work》(No.A-65)、《作品》(No.A-67)、《Work》(No.A-69)、《作品1》(No.B-7)、《Mar.8》(No.B-23)、《Mar.9》(No.B-25)、《モーツァルト“ピアノ協奏曲 第27番 K595”》(No.C-8)、《ラベル“ポレロ”》(No.C-9)、《宮城道雄“春の海”》(No.C-10)、《シューベルト“野薔薇”》(No.C-11)、《ベートーベン“交響曲 第9番「合唱」》(No.C-12)、《ショパン“ポロネーズ 第6番「英雄」》(No.C-13)、《ショパン“ポロネーズ 第7番「幻想」》(No.C-14)、《モーツァルト序曲集(1～6)》(No.C-15)、《ベートーベン“ピアノソナタ「情熱」》(No.C-16)、《シューベルト“交響曲 第8番「未完成」》(No.C-17)、《バッハ“ブランデンブルグ協奏曲 第3番”》(No.C-18)、《バッハ“管弦楽組曲 第2番”》(No.C-19)、《ガーシュイン“ラプソディ イン ブルー”》(No.C-20)、《ガーシュイン“パリのアメリカ人”》(No.C-21)、《モーツァルト“レクイエム K626”》(No.C-22)、《ベートーベン序曲集(1～4)》(No.C-23)、《ビバルディー“協奏曲 第1、2、3、4番「四季」》(No.C-24)、《シューベルト 歌曲“セレナーデ”》(No.C-25)、《グレッキ“すでに日は暮れて”》(No.C-26)、《サラサーテ“ツィゴイネルワイゼン”》(No.C-27)、《ストラヴィンスキー パレエ組曲“火の鳥”》(No.C-28)、《ビゼー“カルメン 第1・2 組曲”》(No.C-29)、《バッハ 管弦楽組曲 第3番より“アリア”》(No.C-30)、《ドボルザーク“交響曲 第8番 作品88”》(No.C-31)、《ブラームス“交響曲 第1番”》(No.C-32)、《ベートーベン“交響曲 第9番「合唱」》(No.C-33)、《モーツァルト“レクイエム K626”》(No.C-34)、他を出品。

6月 ■XLV Esposizione Internazionale d'Arte (La Biennale di Venezia), Passaggio a Oriente [第45回ヴェネツィア・ビエンナーレ、東洋への道](Venezia, 6.13～10.10)に、《足跡》(原作No.B-9 / 1993年再制作)が出品される。同展開催の折に渡欧。

10月 ■具体1955/56—日本現代美術のリスタート地点—(ペンローズ・インスティテュート・東京、10月15日～12月19日/キリンプラザ大阪、1994年2月22日～3月31日)に、《作品》(No.A-67)、《たま》(原作No.B-3 / 1993年再制作)、《作品》(原作No.B-4 / 1993年再制作)、《足跡》(原作No.B-9 / 1994年再制作)、《自動描画機》(原作1956年頃制作 / 1993年再制作)が出品される。

この年 ■Back to Japan, Gutai and Unique Pieces (西武百貨店・東京)に、《作品》(No.B-26)が出品される。

1994 (平6)年 70歳

1月 ■La Donation Anthony Denney[アンソニー・デニー寄贈展](Musée d'art moderne, Toulouse, 1.24～2.28)に、《Peinture》(No.B-41)が出品される。

2月 ■戦後日本の前衛美術(横浜美術館、2月5日～3月30日)に《作品》(No.B-32)が出品される。

5月 ■時間/美術 20世紀美術における時間の表現(滋賀県立近代美術館、5月21日～7月17日)に、《ベートーベン“交響曲 第9番「合唱」》(No.C-33)が出品される。

9月 ■Japanese Art After 1945; Scream Against the Sky [戦後日本の前衛美術](Guggenheim Muse-

um SoHo, New York, 9.14 ~ 1995.1.8 / San Francisco Museum of Modern Art in associate with the Center for the Arts at Yerba Buena Gardens, 3.31 ~ 4.27) に、《作品》(No.B-32)が出品される。

1995 (平7)年 71歳

4月 ■戦後文化の軌跡 1945-1995 (目黒区美術館、4月19日~6月4日/広島市現代美術館、6月14日~7月21日/兵庫県立近代美術館、8月15日~9月24日/福岡県立美術館、10月8日~11月5日)に、《作品》(No. B-26)が出品される。

7月 ■アートは楽しい6 機械帝国(ハラミュージアム アーク・渋川、7月1日~9月24日)に、《自動描画機》(原作1956年頃制作/1993年再制作)、《Mar. 9》(No.B-25)、《ラベル“ボレロ”》(No.C-9)、《宮城道雄“春の海”》(No.C-10)、《シューベルト“野薔薇”》(No.C-11)、《ベートーベン“交響曲 第9番「合唱」》(No.C-12)、《シューベルト“交響曲 第8番「未完成」》(No.C-17)、《ピバルディー“協奏曲 第1、2、3、4番「四季」》(No.C-24)、《サラサーテ“ツィゴイネルワイゼン”》(No.C-27)が出品される。

1996 (平8)年 72歳

6月 ■千葉市美術館・所蔵作品 現代美術 Vol. II (千葉市美術館、3月26日~4月21日)に、《Work》(No. A-29)、《Work》(No.A-30)、《Work》(No.A-69)が出品される。 ■1953年ライトアップ—新しい戦後美術像が見えてきた(目黒区美術館、6月8日~7月21日)に、《作品(J3)》(No.A-62)、《Work-S1》(No.A-64)、《Work》(No.A-65)、《作品》(No.A-66)、《作品》(No.A-67)が出品される。

12月 ■7BOX (ギャラリー喜多・奈良、12月1日~21日/わたくし美術館・大分、1997年11月1日~30日)に、《箱*》(No.C-48)、《箱*》(No.C-49)、《箱*》(No.C-50)を出品。

1997 (平9)年 73歳

3月 ■TORINO PARIGI NEWYORK OSAKA. TAPIÉ. UN ART AUTRE [トリノ、パリ、ニューヨーク、大阪、タピエ もうひとつの芸術] (Galleria Civica d'Arte Moderna e Contemporanea, Torino, 3.13 ~ 6.1 / Espace d'art moderne et Contemporain, Toulouse, 9.22 ~ 11.23)に、《Peinture》(No.B-41)が出品される。

5月 ■千葉市美術館所蔵作品展 流転する美(千葉市美術館、5月9日~6月22日)に、《Work》(No.A-29)、《Work》(No.A-30)、《Work》(No.A-69)が出品される。

1998 (平10)年 74歳

2月 ■Out of Actions: between performance and the object, 1949-1979 [アクション 行為がアートになるとき 1949-1979] (The Museum of Contemporary Art at The Geffen Contemporary, Los Angeles, 2.8 ~ 5.10 / MAK-Austrian Museum of Applied Arts, Vienna, 6.17 ~ 9.6 / Museu d' Art Contemporani, Barcelona, 10.5 ~ 1999.1.6)に、《作品》(No.B-32)、《作品》(No.B-36)が出品される。

11月 ■金山明の場合 —0会、具体の時—(Gallery HAM・名古屋、11月7日~12月19日)を開催し、以下の作品を出品。《Work》(No.A-1)、《Work》(No.A-2)、《Work》(No.A-5)、《街》(No.A-7)、《Work》(No.A-9)、《作品(B)》(No.A-13)、《作品》(No.A-20)、《Work》(No.A-21)、《Work》(No.A-33)、《Work》(No.A-37)、《Work》(No.A-38)、《Work》(No.A-39)、《Work》(No.A-40)、《Work》(No.A-41)、《Work》(No.A-42)、《Work》(No.A-43)、《Work》(No.A-49)、《Work V1》(No.A-59)、《Work-L4》(No.A-61)、《Work (J4)》(No.A-63)、《Mar. 5》(No.B-17)、《Mar. 8》(No.B-24)。

1999 (平11)年 75歳

1月 ■金山明の場合 —その2—1966~1992 (Gallery HAM・名古屋、1月12日~2月27日)を開催。

《Work》(No.A-5)、《街》(No.A-7)、《Work》(No.A-14)、《Work》(No.A-33)、《Work》(No.A-34)、《Work》(No.A-47)、《Work》(No.A-48)、《Work》(No.A-49)、《Mar. 5》(No.B-17)、《Mar. 8》(No.B-24)、《モーツァルト “ピアノ協奏曲 第27番 K595”》(No.C-8)、《ラベル “ボレロ”》(No.C-9)、《宮城道雄 “春の海”》(No.C-10)、《シューベルト “野薔薇”》(No.C-11)、《ベートーベン “交響曲 第9番 「合唱」》(No.C-12)、《ショパン “ポロネーズ 第6番 「英雄」》(No.C-13)、《ショパン “ポロネーズ 第7番 「幻想」》(No.C-14)、《モーツァルト序曲集(1～6)》(No.C-15)、《ベートーベン “ピアノソナタ 「情熱」》(No.C-16)、《シューベルト “交響曲 第8番 「未完成」》(No.C-17)、《バッハ “ブランデンブルグ協奏曲 第3番”》(No.C-18)、《バッハ “管弦楽組曲 第2番”》(No.C-19)、《ガーシュイン “ラブソディ イン ブルー”》(No.C-20)、《ガーシュイン “パリのアメリカ人”》(No.C-21)、《モーツァルト “レクイエム K626”》(No.C-22)、《ベートーベン序曲集(1～4)》(No.C-23)、《ビバルディー “協奏曲 第1、2、3、4番 「四季」》(No.C-24)、《シューベルト 歌曲 “セレナーデ”》(No.C-25)、《グレッキ “すでに日は暮れて”》(No.C-26)、《サラサーテ “ツイゴイネルワイゼン”》(No.C-27)、《ストラヴィンスキー バレエ組曲 “火の鳥”》(No.C-28)、《ビゼー “カルメン 第1・2 組曲”》(No.C-29)、《バッハ 管弦楽組曲 第3番より “アリア”》(No.C-30)、《ドボルザーク “交響曲 第8番 作品 88”》(No.C-31)、《ブラームス “交響曲 第1番”》(No.C-32)、《ベートーベン “交響曲 第9番 「合唱」》(No.C-33)、《モーツァルト “レクイエム K626”》(No.C-34)を出品する。

2月 ■アクション 行為がアートになるとき 1949-1979 (東京都現代美術館、2月11日～4月11日)に、《作品》(No.B-36)が出品される。

3月 ■芦屋美術百科 静謐の美—知られざる具体の系譜 (芦屋市立美術博物館、3月20日～5月30日)に、《Work-C4》(No.A-15)、《Work-E7》(No.A-16)、《Work-E11》(No.A-17)、《Work》(No.A-65)、《作品》(No.A-67)、《作品1》(No.B-7)が出品される。

5月 ■Gutai (Galerie national du Jeu de Paume, Paris, 5.4～6.27)に、《足跡》(原作No.B-9 / 1999年再制作)、《作品》(No.B-32)、《Work 1963》(No.B-50)、《作品》(No.B-54)が出品される。同展開催の折に渡仏。

10月 ■浦島太郎の玉手箱 (Gallery HAM・名古屋、10月23日～11月27日)に、《箱》(No.C-48)、《箱》(No.C-49)、《箱》(No.C-50)が出品される。

2000 (平12)年 76歳

9月 ■金山明の場合 1990-1992 (Gallery HAM・名古屋、9月16日～11月2日)を開催。《赤外・紫外線》(No.C-4)、《赤外・紫外線》(No.C-5)、《紫外線》(No.C-6)、《赤外線》(No.C-7)、《60cmサブミリ波による銀河(野辺山)》(No.C-35)、《オリオンの冷たい分子(オリオン座の中で星が生まれたり死んだりしているところ) 45M電波望遠鏡》(No.C-36)、《ブラックホールの作図(GS2023+388)》(No.C-37)、《X線星論文挿図 A》(No.C-38)、《X線星論文挿図 B》(No.C-39)、《北天銀河アトラス(大)》(No.C-40)、《アポロ、アムール小惑星軌道》(No.C-41)、《アポロ、アムール小惑星軌道》(No.C-42)、《苗村パラポラ鏡の影》(No.C-43)、《苗村パラポラ鏡の影》(No.C-44)、《長谷川一郎先生の計算 オクカルテーション(星食)1950 A》(No.C-45)、《長谷川一郎先生の計算 オクカルテーション(星食)1950 B》(No.C-46)、《北天銀河アトラス(小)》(No.C-47)、《宇宙図 赤黒》(No.C-57)、《長谷川一郎先生の計算 オクカルテーション(星食)1950》(No.C-52)、《ガモフ礼讃 “ビッグバン”》(No.C-53)を出品する。

2001 (平13)年 77歳

2月 ■SPACE ODYSSEY 宇宙の旅(水戸芸術館現代美術センター・水戸、2月10日～5月6日)に、《60cm

サブミリ波による銀河(野辺山)》(No.C-35)、《ブラックホールの作図(GS2023+388)》(No.C-37)、《アポロ、アムール小惑星軌道》(No.C-41)、《宇宙図 赤黒》(No.C-51)が出品される。 ■千葉市美術館2001所蔵名品展—コレクションより6題(千葉市美術館、2月10日～3月4日)に、《Work》(No.A-69)、《絵画》(No.B-44)、が出品される。

2002 (平14)年 78歳

11月 ■コレクション企画[具体美術協会の作家](宮城県美術館、11月12日～12月15日)に《Work 1963》(No.B-50)が出品される。

2004 (平16)年 80歳

1月 ■結成50周年記念「具体」回顧展(兵庫県立美術館、1月24日～3月14日)に、《作品》(No.A-67)、《作品B》(原作No.B-1 / 2004年再制作)、《足跡》(原作No.B-9 / 2004年再制作)、《作品》(No.B-32)が出品される。

2月 ■金山明 差異/音楽/没入(mori yu gallery・京都、2月20日～3月27日)を開催。《ラベル “ボレロ”》(No.C-9)、《宮城道雄 “春の海”》(No.C-10)、《シューベルト “野薔薇”》(No.C-11)、《ショパン “ポロネーズ 第6番 “英雄”》(No.C-13)、《ショパン “ポロネーズ 第7番 “幻想”》(No.C-14)、《ベートーベン “ピアノソナタ “情熱”》(No.C-16)、《バッハ “ブランデンブルグ協奏曲 第3番”》(No.C-18)、《ガーシュイン “ラブソディ イン ブルー”》(No.C-20)、《モーツァルト “レクイエム K626”》(No.C-22)、《ピバルディー “協奏曲 第1、2、3、4番 “四季”》(No.C-24)、《シューベルト 歌曲 “セレナーデ”》(No.C-25)、《サラサーテ “ツィゴイネルワイゼン”》(No.C-27)、《ストラヴィンスキー パレエ組曲 “火の鳥”》(No.C-28)、《バッハ 管弦楽組曲 第3番より “アリア”》(No.C-30)、《ドボルザーク “交響曲 第8番 作品88”》(No.C-31)、《ブラームス “交響曲 第1番”》(No.C-32)を出品。

6月 ■開館20周年記念展 コピーの時代—デュシャンからウォーホル、モリムラヘー(滋賀県立近代美術館、6月5日～9月5日)に、《Work 1961》(No.B-49)が出品される。

11月 ■痕跡—戦後美術における身体と思考(京都国立近代美術館、11月9日～12月19日/東京国立近代美術館、2005年1月12日～2月27日)に、《Mar. 7》(No.B-21)が出品される。

2005 (平17)年 81歳

3月 ●13日、田中敦子とともに自動車事故に遭い、奈良県立医科大学病院に入院。以後、転院を重ねる。

4月 ■謎?なぞ美術展(浜田市世界こども美術館、4月16日～6月19日)に《Work 1961》(No.B-49)が出品される。

8月 ■金山明 新作油彩展「ミニマル」(Gallery HAM・名古屋、8月27日～10月8日)を開催。《Work》(No.A-2)、《Work》(No.A-9)、《Work》(No.A-36)、《Work》(No.A-37)、《Work》(No.A-38)、《Work》(No.A-39)、《Work》(No.A-43)、《無題*》(No.C-2)、《無題*》(No.C-3)、《赤丸》(No.C-54)、《ゼロ》(No.C-55)、《天文単位 太陽と地球の距離》(No.C-56)、《グーゴル》(No.C-57)、《太陽系》(No.C-58)、《Black Hole》(No.C-59)、《Black Hole》(No.C-60)、《チョウチョウ》(No.C-61)、《三原色》(No.C-62)、《三原色》(No.C-63)、《三原色》(No.C-64)を出品。

9月 ■(選)芦屋市立美術博物館収蔵品セレクション(芦屋市立美術博物館、9月3日～25日)に、《Work》(No.A-65)が出品される。

12月 ●3日、田中敦子が歿。この頃から金山の容態も徐々に悪化。

2006 (平18)年 82歳

4月 ■開館25周年記念 所蔵作品による全館展示 コレクションの四半世紀（宮城県美術館、第1部 4月8日～5月28日、第2部 6月3日～7月30日）の第2部に、《Work 1963》(No.B-50) が出品される。 ■ZERO. Internationale Künstler - Avantgarde der 50er/60er Jahre [ゼロ：50-60年代のインターナショナルな前衛芸術家] (museum Kunst palest, Düsseldorf, 4.8～7.9 / Musée d'art moderne, Saint-Étienne, 9.15～2007.1.15)に、《足跡》(原作No.B-9 / 2006年再制作)、《作品＊》(原作No.B-15 / 2006年再制作)、《作品》(No. B-32) が出品される。 ■大阪市立近代美術館 (仮称) コレクション展 こんどは現代美術！(大阪市立近代美術館 (仮称)心齋橋展示室、4月22日～7月2日)に、《March 5》(No.B-18)が出品される。

6月 ■こどもがせんせいー吉原治良の戦後ー(芦屋市立美術博物館、6月17日～9月18日)に、《Work》(No. A-65)、《作品》(No.A-67)が出品される。

9月 ●2日午後1時、肺がんのため三重県三重郡の川越伊藤医院にて歿。 ●3日、妙法寺(大阪市中央区谷町)で通夜、4日本葬が行われる。戒名「星空院祐英日明居士」。妙法寺にある金山家の墓に眠る。

2007 (平19)年

1月 ■金山明(豊田市美術館、1月6日～3月25日)に以下の作品が展示される。《Work》(No.A-1)、《Work》(No.A-2)、《Work》(No.A-3)、《Work》(No.A-4)、《Work》(No.A-5)、《Work》(No.A-6)、《街》(No.A-7)、《作品＊》(No.A-8)、《Work》(No.A-9)、《デッサン帖 A》(No.A-10)、《デッサン帖 B》(No.A-11)、《作品(A)》(No. A-12)、《Work-C4》(No.A-15)、《Work-E7》(No.A-16)、《Work-E11》(No.A-17)、《作品＊》(No.A-22)、《作品＊》(No.A-23)、《作品＊》(No.A-24)、《作品＊》(No.A-25)、《作品＊》(No.A-26)、《作品＊》(No.A-27)、《作品＊》(No.A-28)、《Work》(No.A-29)、《Work》(No.A-30)、《Work》(No.A-31)、《Work》(No.A-32)、《Work》(No.A-33)、《Work》(No.A-34)、《Work》(No.A-35)、《Work》(No.A-36)、《Work》(No.A-37)、《Work》(No. A-38)、《Work》(No.A-39)、《Work》(No.A-40)、《Work》(No.A-41)、《Work》(No.A-42)、《Work》(No. A-43)、《Work》(No.A-44)、《Work》(No.A-45)、《Work》(No.A-46)、《Work》(No.A-47)、《Work》(No. A-48)、《Work》(No.A-49)、《Work》(No.A-50)、《Work》(No.A-51)、《Work》(No.A-52)、《Work》(No. A-53)、《Work》(No.A-54)、《Work》(No.A-55)、《Work》(No.A-56)、《Work-S6》(No.A-57)、《Work》(No. A-58)、《作品(J3)》(No.A-62)、《Work-S1》(No.A-64)、《Work》(No.A-65)、《作品》(No.A-66)、《作品》(No. A-67)、《Work》(No.A-69)、《作品 1》(No.B-7)、《Mar. 6》(No. B-20)、《Mar. 8》(No. B-24)、《作品》(No. B-26)、《作品》(No. B-36)、《作品》(No. B-39)、《Work 1961》(No. B-49)、《Work 1963》(No. B-50)、《無題＊》(No. B-55)、《Work Lines 1964》(No. B-56)、《無題＊》(No.C-1)、《赤外・紫外線》(No.C-4)、《赤外・紫外線》(No.C-5)、《パッサ “管弦楽組曲 第2番”》(No.C-19)、《ガーシュイン “パリのアメリカ人”》(No.C-21)、《グレッキ “すでに日は暮れて”》(No.C-26)、《ベートーベン “交響曲 第9番 「合唱」》(No.C-33)、《モーツァルト “レクイエム K626”》(No.C-34)、《60cmサブミリ波による銀河(野辺山)》(No.C-35)、《アポロ、アムール小惑星軌道》(No.C-41)、《北天銀河アトラス(小)》(No.C-47)、《宇宙図 赤黒》(No.C-51)、《赤丸》(No. C-54)、《ゼロ》(No.C-55)、《ゲーゴル》(No.C-57)、《太陽系》(No.C-58)、《Black Hole》(No.C-60)、《チョウチョウ》(No.C-61)、《三原色》(No.C-63)、《三原色》(No.C-64)、《足跡》(原作No.B-9 / 2007年再制作)、《作品＊》(原作No.B-15 / 2007年再制作)。

6月 ■宇宙御絵図(豊田市美術館、6月19日～9月24日)に、《宇宙図 赤黒》(No.C-51)が展示される。

2008 (平20)年

1月 ■ATUKO TANAKA / AKIRA KANAYAMA [田中敦子/金山明] (Paula Kooper Gallery, New York,

1.17～2.18)に、《Work》(No.A-9)、《作品＊》(No.A-22)、《作品＊》(No.A-28)、《Work》(No.A-31)、《Work》(No.A-33)、《Work》(No.A-34)、《Work》(No.A-40)、《Work》(No.A-42)、《Work》(No.A-43)、《Work》(No.A-46)、《Work》(No.A-47)、《Work》(No.A-52)、《Work》(No.A-53)が展示される。

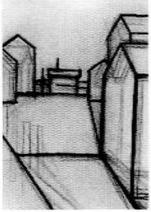
謝辞

本年譜を編むにあたって下記の方々にご教示、ご協力を賜りました。ここに記して謝意を表します。

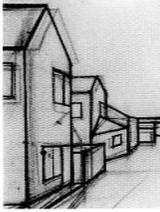
(敬称略、五十音順)

阿佐美淑子、石橋綾、伊藤加奈子、伊藤祥子、占部敏子、小川知子、加藤瑞穂、川西弘一、神野公男、白石正美、福澤博、藤井亜紀、水沼啓和、八木光恵、和田浩一

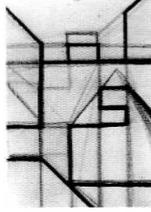
作品図版



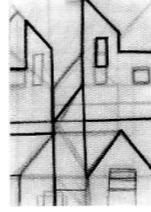
A-1



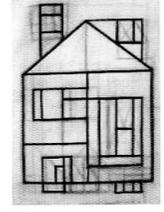
A-2



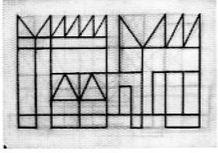
A-3



A-4



A-5



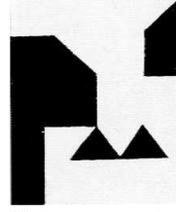
A-6



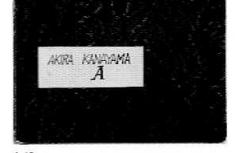
A-7



A-8



A-9



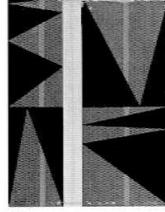
A-10



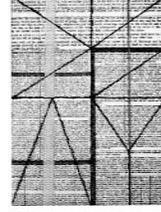
A-11



A-12



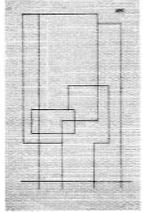
A-13



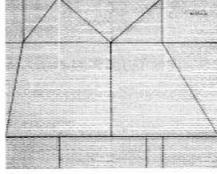
A-14



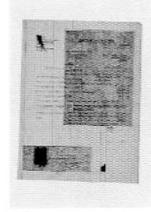
A-15



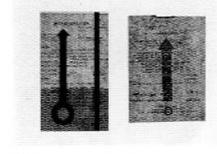
A-16



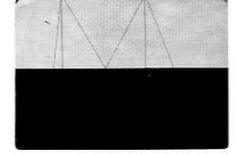
A-17



A-18



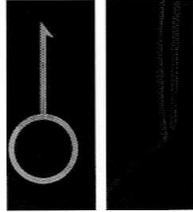
A-19



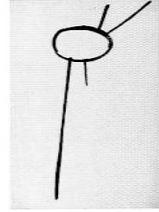
A-20



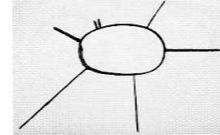
A-21



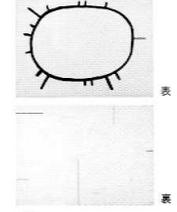
A-22 表 裏



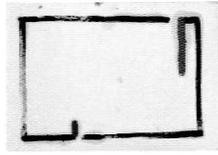
A-23



A-24



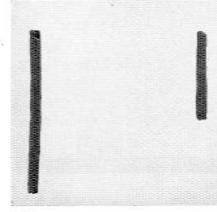
A-25 表 裏



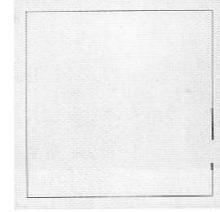
A-26



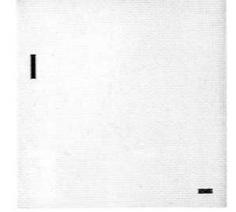
A-27



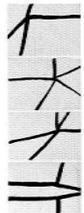
A-28



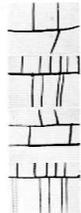
A-29



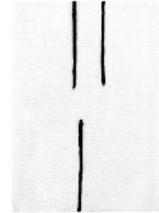
A-30



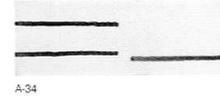
A-31



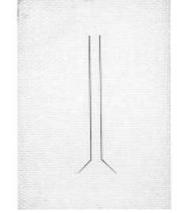
A-32



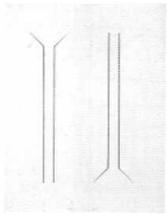
A-33



A-34



A-35



A-36



A-37



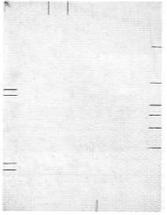
A-38



A-39



A-40



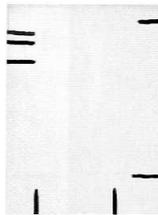
A-41



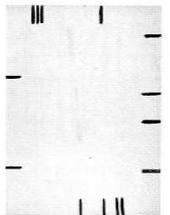
A-42



A-43



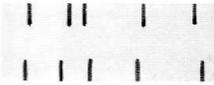
A-44



A-45



A-46



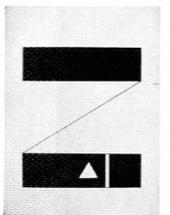
A-47



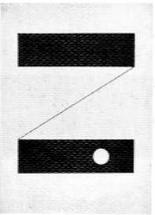
A-48



A-49



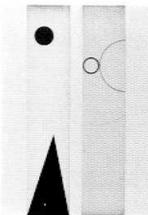
A-50



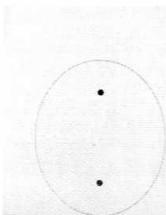
A-51



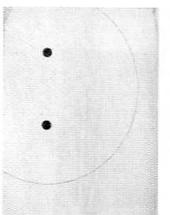
A-52



A-53



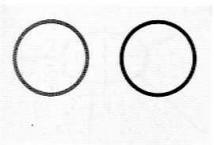
A-54



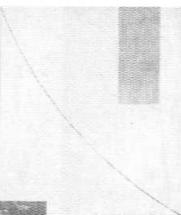
A-55



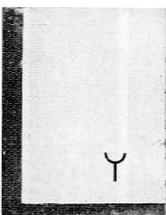
A-56



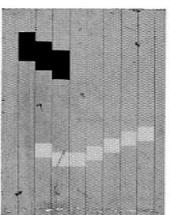
A-57



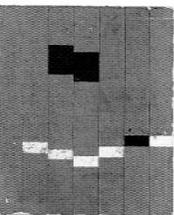
A-58



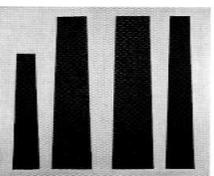
A-59



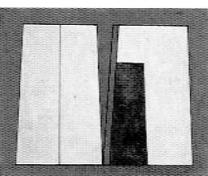
A-60



A-61



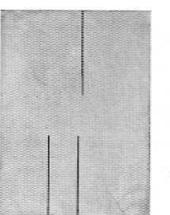
A-62



A-63



A-64



A-65



A-66



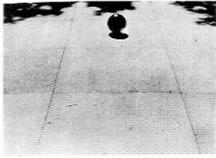
A-67



A-68



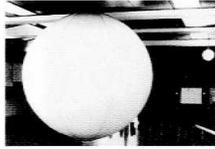
A-69



B-1

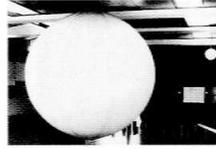


B-2



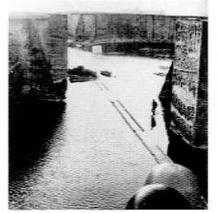
B-3

左



B-4

右



B-5



B-6



B-7



B-8 《監視器》(中央)、《足跡》(床)と金山明



B-9



B-10

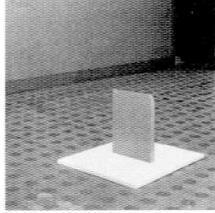


B-11

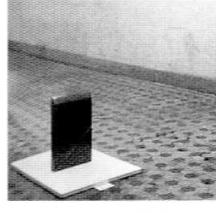


B-12

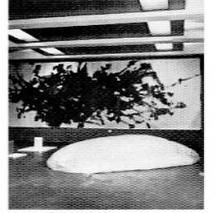
(五)と村上三郎



B-13

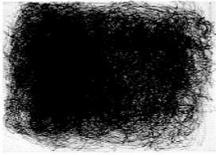


B-14

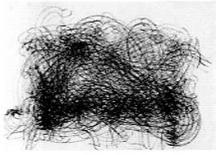


B-15

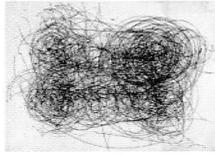
床



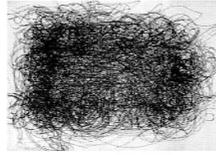
B-16



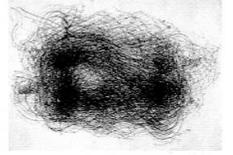
B-17



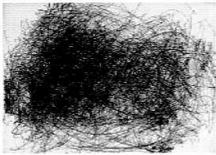
B-18



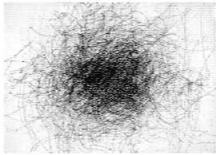
B-19



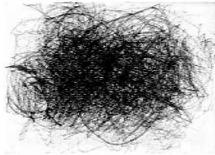
B-20



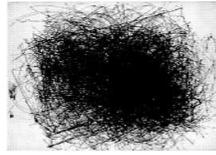
B-21



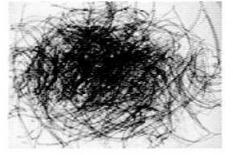
B-22



B-23



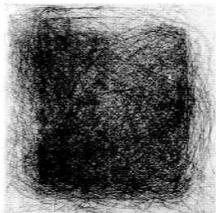
B-24



B-25



B-26



B-27

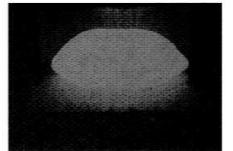


B-28

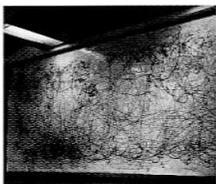
壁面中央



B-29



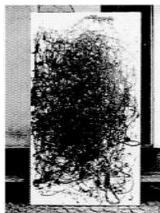
B-30



B-31



B-32



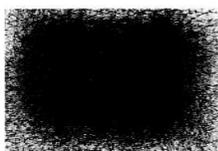
B-33



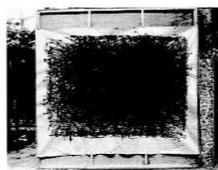
B-34



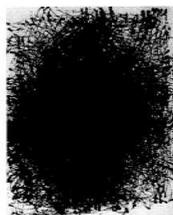
B-35



B-36



B-37



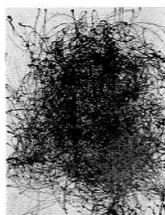
B-38



B-39



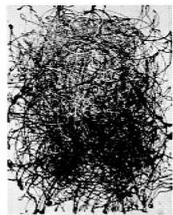
B-40



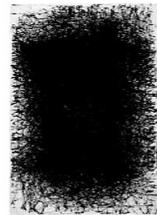
B-41



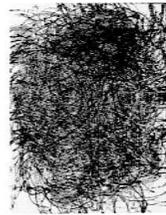
B-42



B-43



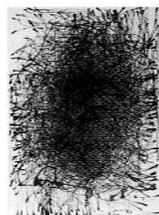
B-44



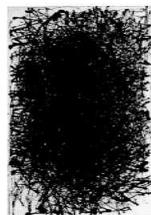
B-45



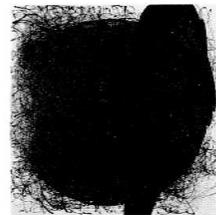
B-46



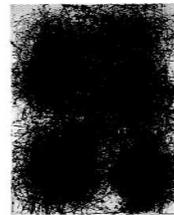
B-47



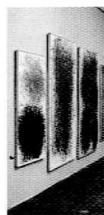
B-48



B-49



B-50



B-51

左



B-52

中央

【右側 現京成国立美術館蔵 (No B-50)】



B-53

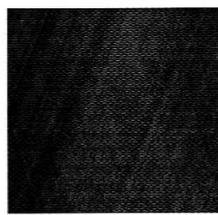
鑑賞



B-54



B-55

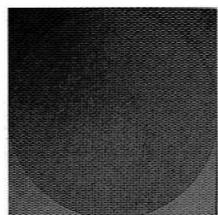


B-56

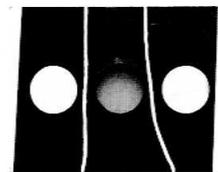


B-57

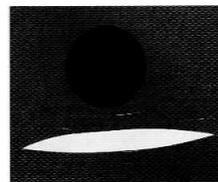
床手前



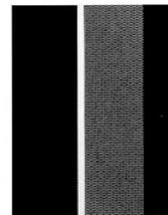
C-1



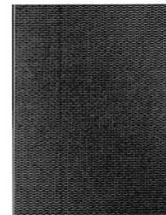
C-2



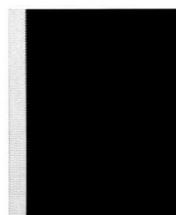
C-3



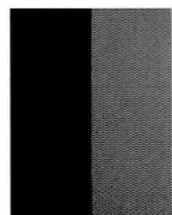
C-4



C-5



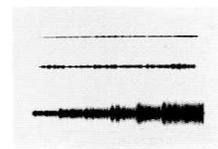
C-6



C-7



C-8



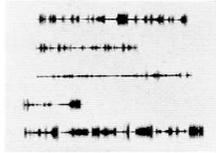
C-8



C-10



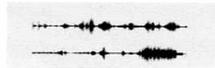
C-11



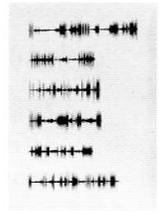
C-12



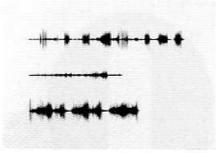
C-13



C-14



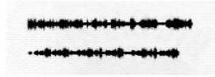
C-15



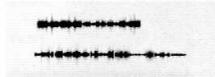
C-16



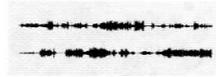
C-17



C-18



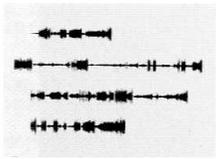
C-19



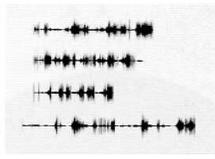
C-20



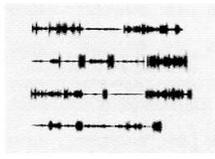
C-21



C-22



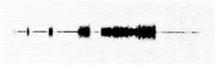
C-23



C-24



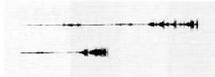
C-25



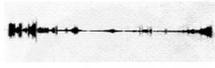
C-26



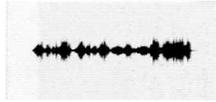
C-27



C-28



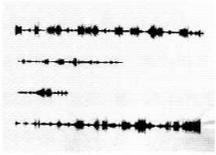
C-29



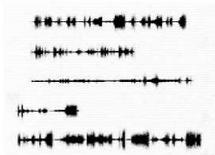
C-30



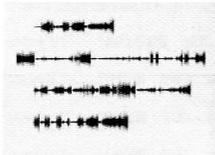
C-31



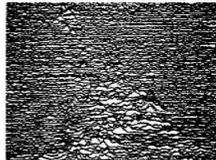
C-32



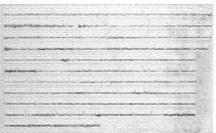
C-33



C-34



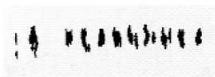
C-35



C-36



C-37



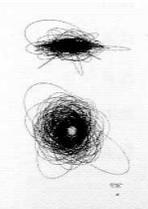
C-38



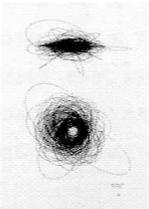
C-39



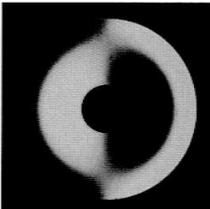
C-40



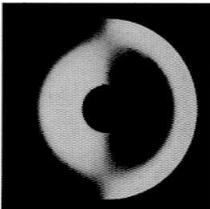
C-41



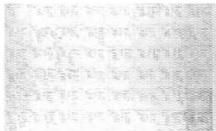
C-42



C-43



C-44



C-45

作品データ

各作品のデータは、図版番号、作品名、制作年、技法・素材、寸法(平面：縦×横cm / 立体：高さ×幅×奥行きcm)、所蔵先の順に記した。

A-1	Work	1949頃	木炭、紙	35.9×25.2		A-38	Work	1952-54頃	水彩、紙	26.5×20.2	
A-2	Work	1949頃	木炭、紙	38.5×29.9		A-39	Work	1952-54頃	水彩、紙	27.4×20.2	
A-3	Work	1949頃	木炭、紙	35.8×25.2	大阪市立近代美術館建設準備室	A-40	Work	1952-54頃	水彩、紙	27.4×20.2	個人蔵
A-4	Work	1949頃	木炭、紙	38.4×27.3	大阪市立近代美術館建設準備室	A-41	Work	1952-54頃	水彩、紙	27.4×20.2	
A-5	Work	1949頃	木炭、紙	54.3×37.9		A-42	Work	1952-54頃	水彩、紙	27.4×20.2	個人蔵
A-6	Work	1949頃	木炭、紙	38.4×54.8	大阪市立近代美術館建設準備室	A-43	Work	1952-54頃	水彩、紙	27.4×20.2	個人蔵
A-7	街	1950頃	油彩、カンヴァス	33.0×24.0		A-44	Work	1952-54頃	水彩、紙	27.4×20.2	大阪市立近代美術館建設準備室
A-8	作品*	1951	油彩、カンヴァス	15.5×23.0		A-45	Work	1952-54頃	水彩、紙	27.4×20.2	大阪市立近代美術館建設準備室
A-9	Work	1951頃	油彩、カンヴァス	27.5×22.0		A-46	Work	1952-54頃	水彩、紙	26.9×16.4	個人蔵
A-10	デッサン帖 A	1951-54	鉛筆、色鉛筆、インク、水彩、グワッシュ、油絵具、オイル、ハトロン紙、B/L紙、ボール紙、段ボール、紙	各 18.4×26.3 (64頁)		A-47	Work	1952-54年頃	水彩、紙	7.4×20.2	個人蔵
A-11	デッサン帖 B	1951-54	鉛筆、色鉛筆、インク、水彩、グワッシュ、油絵具、ボール紙、方眼紙、ハトロン紙、紙	各 29.5×22.0 (40頁)		A-48	Work	1952-54頃	水彩、紙	9.0×25.3	
A-12	作品(A)	1951頃	油彩、カンヴァス	64.7×129.6		A-49	Work	1952-54頃	水彩、紙	12.5×181.0	
A-13	作品(B)	1951頃	油彩、カンヴァス	65.0×50.0		A-50	Work	1952-54頃	水彩、コラージュ、紙	34.3×24.8	大阪市立近代美術館建設準備室
A-14	Work	1951頃	水彩、鉛筆、ガラス、B/L紙	23.5×17.3	Gallery HAM	A-51	Work	1952-54頃	水彩、紙	34.2×24.8	大阪市立近代美術館建設準備室
A-15	Work-C4	1951頃	油彩、鉛筆、B/L紙、ガラス	42.5×91.5	芦屋市立美術館	A-52	Work	1952-54頃	水彩、紙	53.3×38.2	個人蔵
A-16	Work-E7	1951頃	コンテ、B/L紙	42.0×27.0	芦屋市立美術館	A-53	Work	1952-54頃	水彩、紙	各 53.6×10.8 (2枚組)	個人蔵
A-17	Work-E11	1951頃	コンテ、B/L紙	30.5×37.5	芦屋市立美術館	A-54	Work	1952-54頃	鉛筆、水彩、紙	32.0×24.8	大阪市立近代美術館建設準備室
A-18	Work	1952-54頃	鉛筆、水彩、青焼き紙	28.4×21.0	所在不明	A-55	Work	1952-54頃	鉛筆、水彩、紙	34.4×24.8	大阪市立近代美術館建設準備室
A-19	Work	1952-54頃	鉛筆、インク、青焼き紙	21.2×12.0 (左)、19.1×13.6 (右)	所在不明	A-56	Work	1952-54頃	水彩、紙	32.0×24.8	大阪市立近代美術館建設準備室
A-20	作品	1952-54頃	油彩、板	24.2×33.4		A-57	Work-S6	1952頃	油彩、板	91.0×116.5	大阪市立近代美術館建設準備室
A-21	Work	1952-54頃	油彩、板	14.0×32.5		A-58	Work	1952頃	油彩、カンヴァス	53.0×45.5	大阪市立近代美術館建設準備室
A-22	作品*	1952-54頃	水彩、紙	38.4×16.5	個人蔵	A-59	Work V1	1952-54頃	油彩、カンヴァス	41.0×32.0	
A-23	作品*	1952-54頃	水彩、紙	27.6×20.2		A-60	Work-L3	1953頃	油彩、麻布	53.0×41.0	高松市美術館
A-24	作品*	1952-54頃	水彩、紙	18.2×27.8		A-60	Work-L3	1953頃	油彩、麻布	53.0×41.0	高松市美術館
A-25	作品*	1952-54頃	水彩、紙	20.4×27.4		A-61	Work-L4	1953頃	油彩、カンヴァス	45.5×38.0	
A-26	作品*	1952-54頃	塗料、紙	12.3×17.7		A-62	作品(J3)	1954	油彩、カンヴァス	60.8×72.5	東京都現代美術館
A-27	作品*	1952-54頃	水彩、紙	16.0×22.9		A-63	Work(J4)	1954頃	油彩、板	22.1×27.5	
A-28	作品*	1952-54頃	水彩、紙	14.9×15.7	個人蔵	A-64	Work-S1	1954頃	油彩、布	80.0×60.0	芦屋市立美術館
A-29	Work	1952-54	水彩、紙	37.4×37.4	千葉市美術館	A-65	Work	1954	油彩、布	33.5×24.0	芦屋市立美術館
A-30	Work	1952-54	水彩、紙	37.0×37.0	千葉市美術館	A-66	作品	1954	油彩、合板	61.8×61.8	東京都現代美術館
A-31	Work	1952-54	墨、紙	各 8.8×12.5 (4点組)	個人蔵	A-67	作品	1954	水彩、紙	79.3×60.2	芦屋市立美術館
A-32	Work	1952-54	インク、紙	各 8.8×12.5 (4点組)		A-68	作品*	1954頃	不明	不明	現存せず
A-33	Work	1952-54頃	油彩、紙	17.6×12.4	個人蔵	A-69	Work	1954頃	油彩、カンヴァス	33.5×24.0	千葉市美術館
A-34	Work	1952-54頃	水彩、紙	7.3×20.2	個人蔵						
A-35	Work	1952-54頃	インク、水彩、紙	34.3×24.8		B-1	作品 B	1955	塗料、ゴムボール、板	700.0×700.0 (板)、φ30.0 (ボール)	現存せず
A-36	Work	1952-54頃	インク、水彩、紙	30.1×22.9		B-2	作品 B	1955 (1992再制作)	塗料、ゴムボール、板	700.0×700.0 (板)、φ30.0 (ボール)	現存せず
A-37	Work	1952-54頃	鉛筆、紙	14.5×20.2 (上)、13.2×20.2 (下)							

B-3	たま	1955	電球、グローブ	φ50.0	現存せず	B-42	作品*	1960頃	塗料、布	不明	所在不明
B-4	作品	1955	白バルーン	φ約300.0	現存せず	B-43	作品*	1961頃	不明	不明	所在不明
B-5	作品*	1956頃	ビニール		不明 現存せず	B-44	絵画	1960	油彩、カンヴァス	170.0×127.0	千葉市美術館
B-6	作品 1	1956頃	ビニール、パネル		不明 現存せず	B-45	絵画*	1960頃	不明	不明	所在不明
B-7	作品 1	1956頃	インク、ビニール、パネル	130.0×91.5	芦屋市立美術館	B-46	絵画*	1960頃	不明	不明	所在不明
B-8	警報機	1956	不明	不明	現存せず	B-47	Work*	1961頃	不明	不明	所在不明
B-9	足跡	1956	塗料、ビニール	10,000×48.0	現存せず	B-48	Work*	1961頃	不明	不明	所在不明
B-10	足跡	1956 (1992再制作)	塗料、ビニール	10,000×48.0	現存せず	B-49	Work 1961	1961	塗料、布	178.5×174.0	滋賀県立近代美術館
B-11	時計	1956頃	不明	不明	現存せず	B-50	Work 1963	1963	塗料、布	224.0×179.5	宮城県美術館
B-12	玉	1956	不明	不明	現存せず	B-51	Work*	1963	塗料、布	不明	所在不明
B-13	作品*	1956頃	不明	不明	現存せず	B-52	Work*	1963	塗料、布	不明	所在不明
B-14	作品*	1956頃	不明	不明	現存せず	B-53	Work*	1963	不明	不明	所在不明
B-15	作品*	1956頃	インク、ビニール	100.0×350.0×200.0	現存せず	B-54	Work	1964	塗料、布	82.0×65.0	Musée Cantini, Marseille
B-16	Mar. 5	1957	フェルトペン、紙	77.3×109.3	高松市美術館	B-55	無題*	1964	塗料、カンヴァス	116.0×90.5	個人蔵
B-17	Mar. 5	1957	フェルトペン、紙	77.3×109.3	個人蔵	B-56	Work Lines 1964	1964	塗料、カンヴァス	126.5×129.0	個人蔵
B-18	March 5	1957	フェルトペン、紙	77.3×109.3	大阪市立近代美術館建設準備室	B-57	バルーン*	1965頃	不明	不明	現存せず
B-19	Mar. 6	1957	フェルトペン、紙	77.3×109.3	高松市美術館	C-1	無題*	1976	アクリル、カンヴァス	140.0×140.0	
B-20	Mar. 6	1957	フェルトペン、紙	77.3×109.3	個人蔵	C-2	無題*	1980頃	油彩、布	32.0×41.3	
B-21	Mar. 7	1957	フェルトペン、紙	77.3×109.3	高松市美術館	C-3	無題*	1980頃	油彩、カンヴァス	37.9×45.6	
B-22	March 7	1957	フェルトペン、紙	77.3×109.3	大阪市立近代美術館建設準備室	C-4	赤外・紫外線	1989	アクリル、カンヴァス	116.5×90.7	
B-23	March 8	1957	フェルトペン、紙	77.3×109.3	大阪市立近代美術館建設準備室	C-5	赤外・紫外線	1989	アクリル、カンヴァス	130.3×97.2	
B-24	Mar. 8	1957	フェルトペン、紙	77.3×109.3	Gallery HAM	C-6	紫外線	1990	アクリル、カンヴァス	91.0×72.8	
B-25	Mar. 9	1957	フェルトペン、紙	77.3×109.3	個人蔵	C-7	赤外線	1990	アクリル、カンヴァス	100.0×80.3	
B-26	作品	1957	インク、板	182.0×184.0	北九州市立美術館	C-8	モーツァルト “ピアノ協奏曲 第27番 K595”	1992	プリントコピー	59.4×84.1 (エディション20)	
B-27	作品*	1957頃	不明	不明	不明	C-9	ラベル “ボレロ”	1992	プリントコピー	59.4×80.1 (エディション20)	
B-28	作品*	1957	ミクストメディア、ビニール		不明 現存せず	C-10	宮城道雄 “春の海”	1992	プリントコピー	28.5×95.0 (エディション20)	
B-29	作品*	1957頃	インク、ビニール		不明 現存せず	C-11	シューベルト “野薔薇”	1992	プリントコピー	28.0×59.4 (エディション20)	
B-30	巨大なバルーン	1957	不明	不明	現存せず	C-12	ベートーベン “交響曲 第9番 「合唱」”	1992	プリントコピー	79.0×109.5 (エディション20)	
B-31	作品*	1957頃	不明	不明	現存せず	C-13	ショパン “ポロネーズ 第6番 「英雄」”	1992	プリントコピー	28.5×95.0 (エディション20)	
B-32	作品	1957	ミクストメディア、ビニール	180.0×278.5	兵庫県立美術館	C-14	ショパン “ポロネーズ 第7番 「幻想」”	1992	プリントコピー	39.5×109.5 (エディション20)	
B-33	作品*	1957頃	不明	不明	所在不明	C-15	モーツァルト序曲集(1~6)	1992	プリントコピー	84.1×59.4 (エディション20)	
B-34	作品*	1958頃	不明	不明	所在不明	C-16	ベートーベン “ピアノソナタ 「情熱」”	1992	プリントコピー	59.4×84.1 (エディション20)	
B-35	作品*	1958頃	不明	不明	所在不明	C-17	シューベルト “交響曲 第8番 「未完成」”	1992	プリントコピー	39.5×109.5 (エディション20)	
B-36	作品	1958	ビニール塗料、ビニール	180.0×260.0	東京都現代美術館	C-18	バッハ “ブランデンブルグ協奏曲 第3番”	1992	プリントコピー	39.5×109.5 (エディション20)	
B-37	作品*	1958頃	不明	不明	所在不明	C-19	バッハ “管弦楽組曲 第2番”	1992	プリントコピー	39.5×109.5 (エディション20)	
B-38	作品*	1958頃	不明	不明	所在不明						
B-39	Work	1958	塗料、布	116.5×91.0	北九州市立美術館						
B-40	作品	1958	油彩、布	130.0×89.0	高松市美術館						
B-41	Peinture	1959	塗料、布	142.5×108.5	Musée d'art moderne, Toulouse						

- C-20 ガーシュイン “ラブソディ イン ブルー” 1992
プリントコピー 39.5×109.5 (エディション20)
- C-21 ガーシュイン “パリのアメリカ人” 1992 プリントコピー
39.5×109.5 (エディション20)
- C-22 モーツァルト “レクイエム K626” 1992 プリントコピー
79.0×109.5 (エディション20)
- C-23 ベートーベン序曲集(1～4) 1992 プリントコピー 59.4×84.1
(エディション20)
- C-24 ビバルディー “協奏曲 第1、2、3、4番 「四季」” 1992
プリントコピー 59.4×84.1 (エディション20)
- C-25 シューベルト 歌曲 “セレナーデ” 1992 プリントコピー
28.0×59.4 (エディション20)
- C-26 グレッキ “すでに日は暮れて” 1992 プリントコピー
28.5×95.0 (エディション20)
- C-27 サラサーテ “ツイゴイネルワイゼン” 1992 プリントコピー
28.0×59.4 (エディション20)
- C-28 ストラヴィンスキー バレエ組曲 “火の鳥” 1992
プリントコピー 39.5×109.5 (エディション20)
- C-29 ビゼー “カルメン 第1・2 組曲” 1992 プリントコピー
28.5×95.0 (エディション20)
- C-30 パッサ 管弦楽組曲 第3番より “アリア” 1992 プリントコピー
28.0×59.4 (エディション20)
- C-31 トホルザーク “交響曲 第8番 作品88” 1992 プリントコピー
39.5×109.5 (エディション20)
- C-32 ブラームス “交響曲 第1番” 1992 プリントコピー
79.0×109.5 (エディション20)
- C-33 ベートーベン “交響曲 第9番 「合唱」” 1992 プリントコピー
196.0×267.0
- C-34 モーツァルト “レクイエム K626” 1992 プリントコピー
196.0×267.0
- C-35 60cmサブミリ波による銀河(野辺山) 1992 プリントコピー
59.5×77.5 協力:長谷川哲夫
- C-36 オリオンの冷たい分子(オリオン座の中で星が生まれたり死んだりして
いるところ) 45M電波望遠鏡 1992 プリントコピー
89.5×148.5
- C-37 ブラックホールの作図(GS2023+388) 1993 プリントコピー
44.0×80.2 協力:寺田健太郎 Gallery HAM
- C-38 X線星論文挿図 A 1995 プリントコピー 28.0×59.4 提供:
北本俊二
- C-39 X線星論文挿図 B 1995 プリントコピー 28.0×59.4 提供:
北本俊二
- C-40 北天銀河アトラス(大) 1995 写真コラージュ 200.5×270
提供:東大出版会 監修:小平桂一
- C-41 アポロ、アムール小惑星軌道 1995 プリントコピー 59.4×42.0
協力:大西道一 Gallery HAM
- C-42 アポロ、アムール小惑星軌道 1995 プリントコピー 129.0×84.3
協力:大西道一 個人蔵
- C-43 苗村バラボラ鏡の影 1995 ゼラチンシルバープリント
59.0×59.0 提供:苗村敬夫
- C-44 苗村バラボラ鏡の影 1995 ゼラチンシルバープリント
100.0×100.5 提供:苗村敬夫
- C-45 長谷川一郎先生の計算 オッカルテーション(星食)1950 A 1996
プリントコピー 136.0×217.0 提供:長谷川一郎
- C-46 長谷川一郎先生の計算 オッカルテーション(星食)1950 B 1996
プリントコピー 136.0×217.0 提供:長谷川一郎
- C-47 北天銀河アトラス(小) 1996 写真コラージュ 101.5×201.5
提供:東大出版会 監修:小平桂一
- C-48 箱* 1996 塗料、木 21.5×21.8×8.2
- C-49 箱* 1996 塗料、木 21.5×21.8×8.2 mori yu gallery
- C-50 箱* 1996 塗料、木 21.0×21.8×8.2 個人蔵
- C-51 宇宙図 赤黒 1978-98 油彩、カンヴァス 215.5×292.0
豊田市美術館
- C-52 長谷川一郎先生の計算 オッカルテーション(星食)1950 1999
プリントコピー 72.7×90.9 提供:長谷川一郎 個人蔵
- C-53 ガモフ礼讃 “ビッグバン” 1999-2000 油彩、写真、本、
カンヴァス 258.0×199.0 監修:池内了
- C-54 赤丸 2001 油彩、カンヴァス 183.6×122.5
- C-55 ゼロ 2002 油彩、カンヴァス 65.2×53.0
- C-56 天文単位 太陽と地球の距離 2002 油彩、カンヴァス
45.5×37.8 個人蔵
- C-57 グーゴル 2002 油彩、カンヴァス 59.0×79.0
- C-58 太陽系 2003 油彩、カンヴァス 59.0×79.0
- C-59 Black Hole 2003 油彩、カンヴァス 45.5×37.8
- C-60 Black Hole 2003 油彩、カンヴァス 72.8×60.6
- C-61 チョウチョウ 2003 油彩、カンヴァス 58.7×50.0
- C-62 三原色 2004 油彩、カンヴァス 148.8×148.8
- C-63 三原色 2004 油彩、カンヴァス 130.3×89.5
- C-64 三原色 2004 油彩、カンヴァス 214.5×289.0 豊田市美術館